

わくわく体験塾 ~来て 見て 感じて 若狭の香り~

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
28	44	28	27(福井嶺南17・福井嶺北3 県外7)

2. 事業内容(概要)

◆ねらい

- ・若狭地域の歴史・文化にふれ、すばらしさに気づく。
- ・大自然での体験を通して、自然の偉大さを学ぶ。
- ・仲間との交流を通して、友情を育み、多くの思い出を作る。

◆期日・期間

2013年 10月12日(土)～ 2013年 10月14日(月) 2泊 3日

◆参加者分析

- ・募集人数28名に対して44名の応募があった。嶺南地域(5施設のある地域)からの応募が全体の約6割を占めた。
- ・学年別では、小学4年生の応募が多かった。高学年の参加者が低学年の参加者を面倒よく見ている様子が見られた。
- ・嶺南地域の小学生には、各学校から全員にチラシが行き渡るようにしたことから、チラシを見て応募した者が最も多い、中には当施設や他の五施設の事業参加リピーターの応募もあった。

◆期待される成果

5つの施設が、各施設の特色を出したプログラムで全体の企画を構成していることから、変化に富んだ事業展開が期待される。

この事業を通して各施設との連携を深めることにより、今後それぞれの施設がお互いに協力し合う体制作りをさらに強化できることが期待される。

集団で様々な体験をすることをとおして協調性・責任感や思いやりの心を育てることができるとともに、太古の人々が作り出した歴史・文化、自然の素晴らしさに気づき、感動し、さらには大切にしていこうとする態度を育てることができる。

◆ 企画のポイント

本事業は、福井県立若狭歴史民俗資料館・福井県海浜自然センター・福井県立三方青年の家・若狭三方縄文博物館と当施設が連携して企画・運営するものである。昨年度に引き続き、5つの施設をまわりながらそれぞれの施設の特色あるプログラムを体験する内容とした。

本年度は、「来て 見て 感じて 若狭の香り」というサブタイトルのもと、参加者に各施設の体験の中で香りをイメージさせる内容で、体験を通して若狭の歴史や文化について学んでいくことをテーマに実施することとした。

また、今年度は5つの施設のうち、2つの施設がリニューアル工事中で使用出来ず、特に荒天時の場合、活動場所が制限される中で活動に対する興味・意欲が損なわれることがないよう活動内容に工夫を凝らした。

■青少年育成事業■

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10 月 12 日 (土)				受付 (見学有)	開講式 (見学有)	古墳探検	タマト ヘ 海浜 自然セ ン	参観食 (弁当持)		海釣り	釣つた魚の試食	少年動 自然若 の狭家 へ青	オリエンテ ーション	夕食 (漁火見学)	入浴	一日の振り返り	就寝
	→若狭町歴史文化館←				←海浜自然センター→				←若狭湾青少年自然の家→				→若狭湾青少年自然の家←				
10 月 13 日 (日)	起床・洗面	朝のつどい	朝食	荷物整理・清掃	カツターパーク	砂浜自由散策	昼食	移動文博物館へ	シアター	学芸員の講話	勾玉づくり	三方青年の家へ移動	オリエンテーション	夕食 (バーベキュー)	入浴	一日の振り返り (キャンプファイヤー)	就寝
10 月 14 日 (月)	起床・洗面	朝食	荷物整理・清掃	ピザづくり (スペース・スノーウォーク)	閉講式・解散												

◆広報のポイント

県立・町立施設からは、地元密着型の広報を行い、特に5施設のある嶺南地域には、学校をとおして全児童に募集ちらしを配付した。また、当施設は県北・他府県への広報を行い、広域からの参加を促した。このように各施設の持ち味を生かして広報を行った。

また、今年から県はまたぐが若狭町と隣接し、当施設において過去に広報・参加実績のある高島市にも教育委員会に事前に説明し、学校をとおして全児童に募集ちらしを配付した。

◆運営のポイント

昨年度と同様に、各施設の運営は担当施設スタッフが行うことを原則としたが、活動内容に応じて他施設スタッフも協力して運営した。

初日の簡単なアイスブレイキングのあとも最初の活動から班毎で活動できるようなプログラムとし、これから3日間の生活や活動を共にする仲間との交流が図れるよう意識したプログラムとした。

また、子どもたちの活動を直接支援するボランティアは、年齢も近い大学生の学生ボランティアを班付きリーダーとして配置、子どもたちが安心・安全に3日間生活できるように配慮した。

◆安全管理のポイント

活動を行う担当施設スタッフを中心に、班付きリーダーも班の子どもたちに目を配るとともに、他施設スタッフも安全に活動できるよう注意をはらった。それと併せて、3日間の活動中、怪我に備え常にファーストエイドキットを持ち歩いた。また、急病や怪我など緊急時には、すぐに病院へ搬送できる体制を整えるため、緊急車両として動ける車を配置した。

◆事業実施の必要性

若狭地方は自然豊かな環境にあり、京都や大陸とのつながりもあり歴史的にも大変恵まれた環境にある地域である。その良さを地域の人々だけでなく、広く地域外の人々にも理解してもらうために、本所の近隣にある4施設は特色ある活動を各施設で提供している。そこで、広域性をもつ本所を

■青少年育成事業■

中心に5施設が連携し、地域の活性化に繋がる事業を実施することになり10年目となる。

5施設が連携することにより、若狭地域の文化・歴史と自然の両面の体験が可能になり、地域に愛着をもち、社会的自立につながる活動の場を子どもたちに提供することができる。

◆事業の特色

本所が他の4施設に対してリーダー的な立場で連携をとり、この事業を企画・運営していく。(事務局は持ち回りで担当し、本年度は当施設が担当した。)

共催している5つの全ての施設で活動するので、参加者に各施設に親しみを持ってもらうとともに、募集時の広報等を通して、地域外の人たちにも広く広報することができる。

また、古墳探険や勾玉作りなどの歴史文化体験活動と、カッター漕艇や海釣り体験、若狭の薪、炭を使ったキャンプファイヤーやバーベキューなどの自然体験活動を行う。子どもたちには5施設それぞれの特色を生かした様々なプログラムを提供でき、若狭地域のすばらしさを体で十分に感じさせることができる。

◆今年度の位置づけ

13年目の継続事業となる。国立若狭湾青少年自然の家が主導的な立場となり、歴史的・文化的施設と自然体験的施設が企画・運営両面で協力しながら、子どもたちの今日的課題の解決に寄与しようと、子どもたちが興味・関心のもてるプログラムを提供する努力をしてきた。

今年度は、歴史・文化体験に重点を置き、若狭地域の連携事業ならではの歴史的・文化的体験活動と自然体験的活動を提供し、子どもたちの学習意欲も高める内容とした。

3. アンケート結果

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	78%	15%	7%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	81%	15%	4%	0%
この事業の運営はどうでしたか	52%	41%	7%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

4. 成果と課題

(1) 成果

・学生ボランティア及び実習生の若い人たちが班付きリーダーとして子どもたちを優しく気遣い、場面により厳しく接して班をうまくまとめてくれたおかげで、参加の子どもたちは班付きリーダーを頼って何でも話して活動にも意欲的に取り組む様子が見られた。

・5つの施設が各施設の特色を出したプログラムで全体の企画を構成していることから、変化に富んだ活動を開拓していくことが出来た。その結果、参加者の感想も普段できない、いろいろな経験ができたという声が多く寄せられた。

(2) 課題

・今回、テーマとして「来て、見て、感じて若狭の香り」と言う設定で、各施設とも香りをイメージさせる内容でプログラムを構成したつもりであるが、香りを感じる内容をも盛り込むことが難しく感じた。過去より毎年テーマ設定を変えて企画をしてきた経緯があるが、年数を重ねていくほど、設定に限界も生じてきており、過去のテーマにとらわれることなく根本からプログラムを見直していく事も必要になってきているのではないかと感じた。

・今回は海のコンディションが非常悪く、活動に入れるかどうかの判断基準について各施設での認識に大きな隔たりがあり、最終決定の判断に時間を要したため、海浜センターでの海釣りの中止決定やカッターのスタートが遅れる場面があった。各施設での判断基準だけでなく、参加者に4年生がいることなど体力面も考慮して、5施設でその基準について予めもう少し話し合って共通認識をもつておく必要があった。

■青少年育成事業■

・開講式のあと、午前の活動の古墳探険の時間が少なくなるため、歴史文化館の中でのグループ毎の歴史クイズや古墳探険の中で班毎に交流を深めてもらおうと企画を進めたが、アイスブレーキングの時間をしっかり取った方が、その後の活動へもスムーズに参加ができたのではないかと意見があった。

・5つの施設が連携して事業をすることは、それぞれの特色が生かされ1施設のみでは、成しえないプログラムで実施することに価値は高いが、やはり各施設の活動がマンネリ化していくかのように、新たなプログラムを組んで構成していく等、今後も活動内容に工夫を凝らす必要があると感じた。

(3) 参加者の声

- ・またこういう機会があつたら参加したい。
- ・友達ができると思っていたけどたくさんできてよかったです。
- ・カッターは、よつたり疲れたりして大変だった。
- ・友達が増えた。
- ・いつも参加しているところより楽しい。
- ・次回また絶対来たい。
- ・知らなかつたひとたちと仲良くなれて楽しかったし、嬉しかった。
- ・みんな初対面なのに仲良くしてくれて、笑ってくれたことが良かった。

(4) 活動の様子

＜福井県立歴史民俗資料館企画の活動＞



【若狭町歴史文化館見学】



【古墳探検事前学習】



【大谷古墳探険】

＜福井県海浜センターでの活動＞



【海の環境学習】



【ビーチクラフト作り】



【魚さばき体験】

＜国立若狭湾青少年自然の家での活動＞



【ナイトハイキング】



【1日のふりかえり】



【朝のつどい】

■青少年育成事業■



【カッター漕艇】



【海釣り】



【集合写真】

<若狭三方縄文博物館での活動>



【学芸員の方の説明】



【館内見学】



【勾玉作り】

<福井県立三方青年の家での活動>



【若狭の炭でバーベキュー】



【キャンプファイアー】



【手作りピザでの昼食】